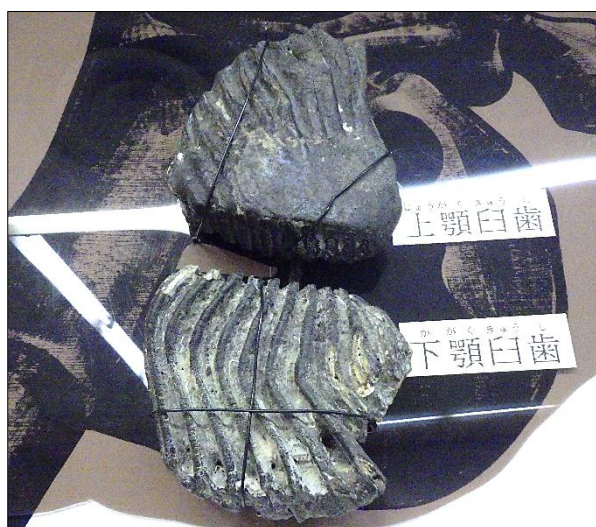


三原市歴史民俗資料館

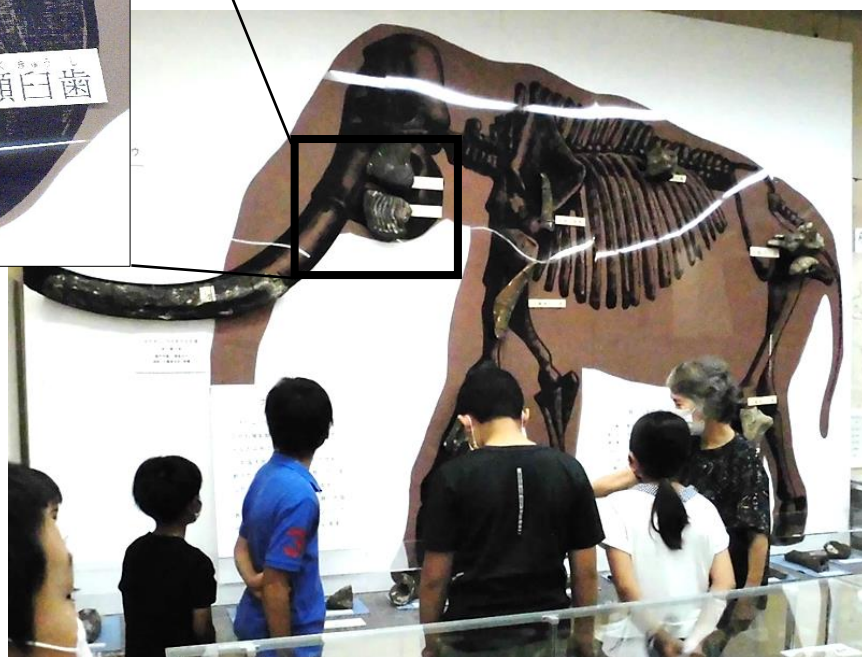
# 三原のお宝 歳出しニュース

— 第 67 号 —

## 三原の海底で発見！ ナウマンゾウの化石



板を並べたような形をした、  
大きな臼歯きゅうしを見学できます。



ナウマンゾウの化石展示です。  
牙や歯、脚の化石などが発見されています。

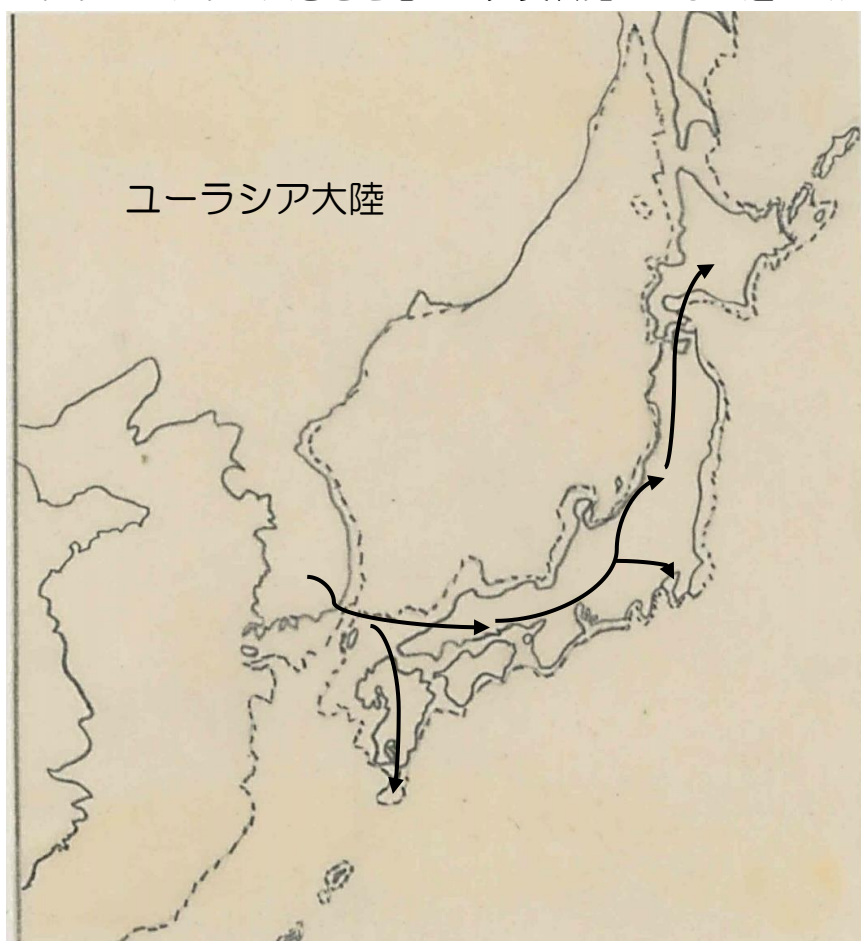
資料館の2階展示室には、大きな骨格こっかくイラストとともに、ナウマンゾウの化石を展示しています。これは、昭和25（1950）年に始まった和田沖干拓事業かんだくしぎょうの時に、海底かいていからポンプで吸い上げられた化石です。

ナウマンゾウは今から約40万年前～1万5千年前ごろまで、現在の日本・中国周辺しゅうへんに生息していたゾウの仲間です。体の長さが4.5メートルほど、肩までの高さが3メートルほどで、現在のアジアゾウやアフリカゾウより長さが1メートルほどこがた小型でした。

海底から発見されたナウマンゾウは、今から約2万年前ごろに、ユーラシア大陸から日本へ移動してきたと考えられています。当時は氷河期と呼ばれ、世界の平均気温は約7～8度ほど低く、世界各地は氷河と、蒸発した海水が凍った雪におおわれていました。海面は今より100メートル以上低く、大陸と日本の間を歩いて移動できる場所がありました。ナウマンゾウはその部分を渡って来たのです。

その後、数千年かけて地球の気温が上がり氷河が融けたことで、約6千年前ごろに海面がほぼ現在の高さになりました。その結果、ナウマンゾウの化石は陸地とともに海底に沈み、長い年月を経て発見されました。

ナウマンゾウの大きさを感じに、資料館へぜひお越しください！



ナウマンゾウの化石は日本各地で発見されていますが、特に関東地方と瀬戸内海が多いです。

現在の朝鮮半島付近から渡ってきて、各地に移動したと思われます。

(矢印は推測される移動経路)

太い線…現在の海岸線

点線…昔の海岸線

(『広島県史 考古編』11ページ

「図3 旧石器時代末期の日本の自然景観」から作成)

ナウマンゾウの化石は、  
みはらデジタルミュージアム（考古資料）で  
公開中です！



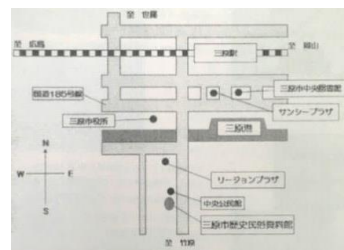
<https://www.city.mihara.hiroshima.jp/soshiki/50/138979.html>

三原市歴史民俗資料館

三原市円一町 2-3-2

TEL0848-62-5595

令和5年5月発行



《編集後記》

令和5年度は、考古学に関する資料館資料を紹介します。

昔の三原の様子を伝えていきたいと思ひます。(み)